



グレイ

堂場 瞬一 著 (集英社)

著名な経済評論家が主宰する「北川社会情報研究所」。大学二年生の波田は、街頭調査のバイトで見込まれ、破格の待遇で契約社員になる。それが運命を大きく狂わせる一歩だとは知らずに...『小説すばる』掲載を単行本化。



ここからはじまる

はらだ みずき 著 (新潮社)

小三の勇翔の夢はプロのサッカー選手。ただ、本人は自分のレベルがよくわかっていない様子。そんな息子に歯がゆさを覚えた父は、ある行動を起こす。共に悩みながら歩んでいく、親と子の成長物語。『小説新潮』掲載を単行本化。



児童書

がっこうにヤギがきた! 長谷川 知子 (小学校一・二年用) (新日本出版社)

朝礼で校長先生が「学校の飼育小屋で、動物を飼うことにします」と言った。何の動物を飼うか決めることになった二年生の教室では、早速話し合いが始まるが...。大都会の真ん中で生きる子どもたちと二頭のヤギの物語。

7/1 図書室を休館します

資料整理のため、7月1日(火)は、図書室をお休みします。

7月2日(水)からは平常どおり利用できます。

問合せ 社会教育センター 図書室 28・5449



豊山俳句クラブ

青山克己 選

杉浦みどり

果てるまで赤き椿のままに生る

小塚美枝

ゆったりとじだれて風の桜かな

石黒貴代子

だらだらと日々の言訳ひな納め

杉本 衿子

菜の花や大欠伸する昼下り

坪井 径子

受け止める手をすり抜けて桜かな

豊山歌壇

水野笑子 選

山田 米

老化には良き訓練と言ひ訳し 生産性なきバズルに励む

水野 恵子

喜寿迎ふ父母の年齢超えし吾 米寿の坂へ如何に歩まん

中澤 芳子

見る者の心を揺さぶるアスリートの 強さと繊細さに涙の滲む

渡辺トヨ子

老いたれば遠き故郷に戻れぬと 受話器を置きぬ恋しく思へど

田村多喜子
さくら、さくらさくらに時を預け
をり

高木須磨子
空白を淡く染めたるさくらどき

坪井昭子
菜の花の黄色が似合う厨窓

岡島 齋
ためらひもなく蝶々の海に出る

村上ゆり子
たんぼのハミング青い宇宙かな

青山克己
網を引く春を海ごとひき出せり

一柳千鶴子
旅せしは幾つの国か指折りて
眠れぬままに脳裡に描く

安藤定岳
耕せる土の中なる幼虫に
成虫思ひそつと戻しぬ

荒川昌枝
年重ね暇は出来るもかすむ目に
本を遠ざけ映像を追ふ

村上 一枝
青空に園児の声と鳥の声
近くに聞こえ心も聞く

林 たよ
腸とふは第二の脳にて指示なくも
働き変ふるひとつの臓器

落合さなえ
外宮より内宮に向ふバス停に
集へる人ら面差しも良く

編集後記

母は、定年までパート勤めをしてきたため、子どもも頃は一人で家の留守番をした寂しい思い出がある。自分の子どもにも同じ思いをさせたくない。妻には専業主婦を望んだ。ひよっとしたら、そんな些細な気持ちも、女性の社会進出を妨げている一因かもしれない。育メンが話題となつている。私も子育てや地域の活動にも参加し、休日はたまに家族の食事を作り、それなりに貢献しているつもりだ。もっとも妻の要望には程遠いものかもしれない。男女共同参画は、なにも女性の社会進出だけで叶うものではない。男性も家庭で、地域で、そして職場で、あらゆる形で女性と役割を分かち合うことが重要だ。あまり知られていないが、毎年六月二十三日から二十九日までの一週間は、男女共同参画週間だ。平成二十六年度のキヤッチフレースは「家事場のパパチカラ」、学生さんの作品である。子どもは、お父さんに家庭での役割も期待している。そんな気持ちも表現しているキヤッチフレースだ。今こそ世のお父さんの「パパチカラ」を発揮して、男女共同参画の社会を実現する時ではないか。本町では、男女共同参画の視点を活かした豊かなまちづくりの実現のため、毎年レインボースクールを開催している。レインボースクールは、あらゆる立場の人たちが知識や教養、経験を深める場として、男女共同参画をテーマにした講演会だ。楽しく学べる講演会を企画することとしている。ぜひ、ご参加いただきたい。